

「お帰りなさい、クロード」

米兵遺骨 81年ぶり故郷に

旧日本軍による米ハワイ・真珠湾攻撃で犠牲になり、身元の分からなかった米兵の遺骨が、米軍によるDNA鑑定で米西部カリフォルニア州ベンチュラのクロード・ガルシアさん(当時25)と判明し、昨年十二月、八十一年ぶりに故郷に戻った。遺骨を受け取ったクロードさんの姉の孫、リック・ラフィネリさん(8)は「時間はかかったが、家族の元に戻ってきてくれて本当にうれしい」と感慨深げに語る。(アメリカ総局・浅井俊典)

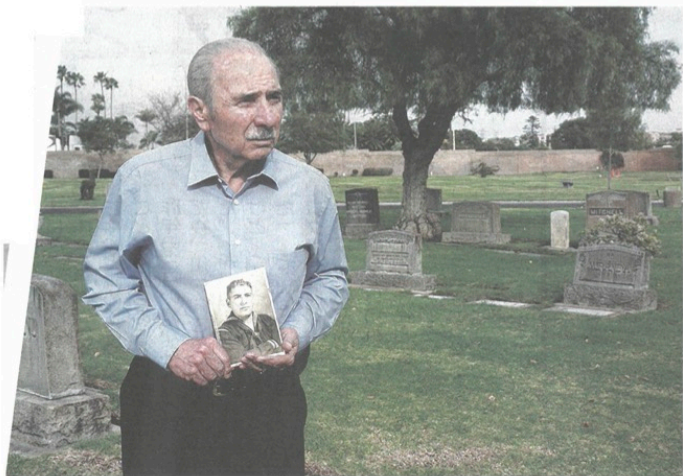
「最初に連絡が来たときは半信半疑だった。でも、米軍がこれほど長期間にわたって遺骨を家族の元に帰す努力をしていたと知り、心が震えた」。二〇二二年夏に国防総省の「戦争捕虜・戦中行方不明者捜索統合司令部」(DPAA)から連絡を受けたときのことを、ラフィネリさんはこう振り返る。

「一九四二年十二月八日(現地時間七日)、旧日本軍がハワイ・オアフ島の真珠湾にある米軍基地を奇襲攻撃し、米側は戦艦アリゾナなど四隻が沈没、民間人を含む約二千四百人が死亡した。海軍の技師だったクロードさんは、沈没した戦艦ウエストバージニアに乗っていた。攻撃の後、家族に戦死が知らされた。

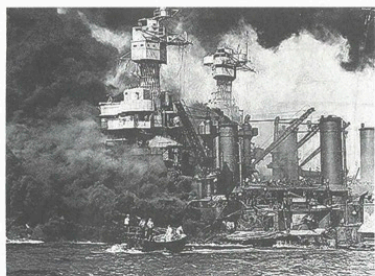
真珠湾攻撃で犠牲、米軍が再調査



真珠湾攻撃で戦死したクロード・ガルシアさん(リック・ラフィネリさん提供)



④クロードさんが眠る墓地で遺骨の戻った経緯を語るリック・ラフィネリさん(浅井俊典撮影) ⑤米ハワイの真珠湾で旧日本軍の攻撃を受けて炎上する戦艦ウエストバージニア(米国立公文書館所蔵)



「お帰りなさい、クロード」と残念がったという。米軍の資料によると、真珠湾攻撃の後、旧日本軍の攻撃を受けた。翌朝、旧日本軍の攻撃を受け、助けに向かったロバートさんはクロードさんの乗る戦艦に爆弾が直撃するのを目の前で見たという。戦後、ロバートさんは「クロードは真珠湾で死んだんだ。家にも帰って来られなかったし、結婚して家庭を持つこともかなわなかった」と残念がったという。

四人きょうだいの次男としてベンチュラで生まれ育ったクロードさんは、高校卒業後に海軍に入隊。兄のロバートさんも海兵で、二人は真珠湾攻撃の前夜にロバートさんの兵舎と一緒にトランプをしていた。翌朝、旧日本軍の攻撃を受け、助けに向かったロバートさんはクロードさんの乗る戦艦に爆弾が直撃するのを目の前で見たという。戦後、ロバートさんは「クロードは真珠湾で死んだんだ。家にも帰って来られなかったし、結婚して家庭を持つこともかなわなかった」と残念がったという。

「あの戦争では、米国人の家族と同じように親や子を亡くした日本人家族も大勢いる。戦争に参加した人間を責めるつもりはない。私たちが戦争をしなければならなかったことが悲しいだけだ」と静かに語った。

DPAAは、第二次世界大戦以降の戦争で身元確認できなかった米兵の遺骨を発掘して持ち帰り、DNA鑑定などをして遺族に引き渡す任務を負う。「全ての兵士を家族の元に戻す」が合言葉だ。ラフィネリさんが妹とともにDNAのサンプルをDPAAに送ると、クロードさんと同じDNA型が検出された。クロードさんの遺骨は手や足の一部を除き、ほとんどの骨が残されていたという。

遺骨が納められた棺がベンチュラに戻ったのは昨年十二月六日。家族の眠る墓地に車で運ばれる間、沿道には星条旗が掲げられ、軍関係者や退役軍人、消防士らが見守った。ラフィネリさんは棺に向かって声を掛けた。「お帰りなさい、クロード」

クロードさんの墓は母親の隣に設けられ、墓地の敷地内には姉や兄も眠る。ラフィネリさんは「クロードは故郷のベンチュラが大好きだったと聞いていた。彼がいま、母親やきょうだいと一緒にいられるのは本当に大切なことだ」と話す。

真珠湾攻撃をきっかけに米国は日本との戦争に突入したが、「日本人を恨んではいない」という。

「あの戦争では、米国人の家族と同じように親や子を亡くした日本人家族も大勢いる。戦争に参加した人間を責めるつもりはない。私たちが戦争をしなければならなかったことが悲しいだけだ」と静かに語った。